

III やっらやば閑話

「すいかをめぐる情勢」

夜更かしを生きがいにしてきた私でしたが、21:00には子どもと一緒に寝て（いや子どもよりも先に？）4:00に起きて、始発で大田市場に向かう生活にも慣れてまいりました。

さて、ここ最近の青果棟は、見渡す限り熊本、千葉、鳥取等のスイカで占拠されています。昨年まで富里市でスイカの担当をさせていただき、また前職鳥取県でもスイカをかじらせてもらっていたこともあり、スイカへの思いはひとしおです。そんなこともあり、昨年までもやっていたのですが、すいかをめぐる情勢を稚拙ながらまとめてみました。

①作付面積、単価について

- ・全国、主産県の作付面積は右肩下がり。一方単価は、供給減少に伴い、年々右肩上がり。
- ・作付面積を県別に5年前と比較すると、北海道は106%と伸びているが、他産地は軒並み減少。その中でも減少率の低い山形県、鳥取県は、JA、市町、県等の関係機関で連携をとり、「山形すいか農学校」、「産地体験会」等担い手確保に向けた取組を進めており、成果が出ている。
- ・ちなみに（データは省略するが、）鳥取県の出荷量（R6/R元）は106%と増加している。

※富里市でも「富里すいか産地体験会」と題し、R6年から実施中。

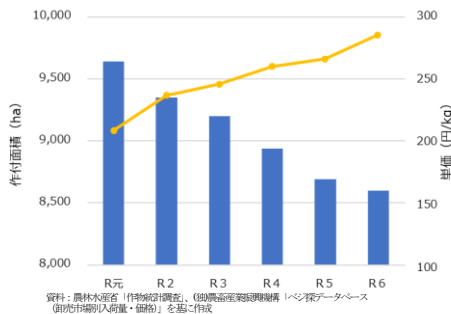


図1 全国のスイカ作付面積及び単価の推移

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	単位: ha R6/R元
全国	9,640	9,350	9,200	8,940	8,690	8,600	89%
北海道	311	313	318	318	306	329	106%
山形	810	798	785	765	765	770	95%
千葉	1,010	978	974	947	916	921	91%
新潟	523	513	505	480	432	430	82%
長野	333	314	304	295	283	298	89%
鳥取	375	372	368	374	372	369	98%
熊本	1,330	1,290	1,280	1,260	1,240	1,190	89%

資料：農林水産省「作物統計調査」を基に作成

表1 全国、主産県におけるスイカ作付面積の推移

②消費動向について

- ・スイカは記録的猛暑により、①最盛期である7～8月の支出がより高まり、②6、9～10月の今まで販売が少なかった期間も取り扱いが増えたため、年間のスイカ支出金額が増えている（物価高の影響もありながらも、すいかを食べたい期間が今までより長くなっている）。
- ・一部仲卸からは「猛暑によりメロン（特に青肉）の棚持ちが悪いため、その時の代替品が小玉すいかとなっている」という話があり、メロンの取り扱いが減っているということであったが、データ上でもそのような傾向が見られた。

		単位：円													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
スイカ	R元	0	1	2	34	152	259	377	416	55	4	1	1	1,302	
	R6	0	1	4	45	116	267	492	433	79	8	2	2	1,449	147円UP
メロン	R元	13	6	13	37	137	244	276	159	36	13	17	14	965	
	R6	8	8	10	29	145	262	248	125	47	22	19	24	947	18円DOWN
生鮮果物	R元	2,659	2,646	2,747	2,583	2,554	2,683	3,198	3,695	3,459	3,008	2,936	3,575	35,743	
	R6	2,821	2,835	2,872	2,657	2,642	2,820	3,395	4,047	3,907	3,445	3,344	4,130	38,915	3,172円UP

資料：総務省「家計調査（品目別）支出金額」を基に作成

表2 スイカ、メロン、生鮮果実における年別月別支出金額

(脱藩普及員)